

丸山薰
全集
3



丸山薫全集 3

角川書店



丸山薫全集 3

1976年12月30日 初版發行

著 者	丸 山 薫
發行者	角 川 春 樹
印刷者	和 田 彰 三
發行所	角 川 書 店

東京都千代田區富士見
2 の13 Tel (265)7111
振替東京 3-195208
東洋印刷・鈴木製本
0392-573103-0946(0)

目次

I

送春愚語

憂愁のふるさと

噴
水

夕

二二ぼるかんちん檣樓船

航海

望雲詩錄

望洋

えろふれいん

海底地震

雨

沖でおこつたこと

狼になる

J氏とI君

影

梅

ハガキ

C

Well,

 $\gamma_S(\hat{x}) \gamma$

谷

閏

海

人

影

密林

赤い海 青い鯛

晩い夏

油煙を流す戦艦

燕

菊と海

草景

暖い春

Shining Sea

菊と海

感情は粉のやうである！

牛

枢

手向

風雨

たそがれの河

夢ならば！

壁

公園

路

都郊

港

ビルディング

アシカ

II

闇い河

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

窓

雪ふる時
噴水
四月の夢
歸郷
夜の繪
季節
井戸
鷗こがらしよ夜
未明
光
和壺わに丸首途
梅の果み
新月譚
夕雲
日誌
臆おとせ豚獸
乙女峠

一〇四
一〇三
一〇二
一〇一
一〇〇
九九
九八
九七
九六
九五
九四
九三
九二
九一
九〇
八九
八八
八七
八六
八五
八四
八三
八二
八一
八〇
七九
七八
七七
七六
七五
七四
七三
七二
七一
七〇
六九
六八
六七
六六
六五
六四
六三
六二
六一
六〇
五九
五八
五七
五六
五五
五四
五三
五二
五一
五〇
四九
四八
四七
四六
四五
四四
四三
四二
四一
四〇
三九
三八
三七
三六
三五
三四
三三
三二
三一
三〇
二九
二八
二七
二六
二五
二四
二三
二二
二一
二〇
一九
一八
一七
一六
一五
一四
一三
一二
一一
一〇
九
八
七
六
五
四
三
二
一

初夏抒情
晩春
明るい本
町角
颱風來
南十字星
鯨の感慨
いま行く道
梅
端午所感
巨船について
水の迹
田舎の繪
郊外住居
時代と共に
若い船乗
航跡圖
南へ

一三
一四
一五
一六
一七
一八
一九
二〇
二一
二二
二三
二四
二五
二六
二七
二八
二九
三〇
三一
三二
三三
三四
三五
三六
三七
三八
三九
四〇
四一
四二
四三
四四
四五
四六
四七
四八
四九
五〇
五一
五二
五三
五四
五五
五六
五七
五八
五九
六〇
六一
六二
六三
六四
六五
六六
六七
六八
六九
七〇
七一
七二
七三
七四
七五
七六
七七
七八
七九
八〇
八一
八二
八三
八四
八五
八六
八七
八八
八九
九〇
九一
九二
九三
九四
九五
九六
九七
九八
九九
一〇〇

總員洗濯

わが焦立ちの中の風景

弔詩 君去つたあと

津村信夫を悼む

十三年の話

III

山住居

第一行

教室日誌

飛翔

悲運

雪の中

化石

北の訪問者

坂

若きXに

言はざるもの

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

遠嶺のあたり

北の幻

希ひ

使者

春・梅・雨

かくの如きは

花の美

晝の對話

夜に想ふ 二題

母を呼ぶ

汽車がカーヴにかかるとき

時空の前に

秋くれば

荒涼

春

批評に

陸

秋

一五

一六

一七

一八

一九

二〇

二一

二二

二三

二四

二五

二六

二七

二八

二九

三〇

三一

三二

晩秋	三三
クロバーに	三三
火蛾	三四
超現実主義終焉	三五
秋風	三七
その一步を……	三八
蕾に	三〇
穹（そら）	三三
緑	三四
花	三五
梅	三六
ひとりなるもの	三七
夜ふけの鏡	三九
無為の詩	四四
やがて来る瞬間に	四三
一羽と群と	四四
あいのない	四七
二つの心	五一

駿馬に題す	三三
酪農の理想	三四
感覺主義	三五
蒼穹	三七
希望号	三八
二つの世界	三〇
ホトトギス	三三
//海には花の匂いがする//	三四
空との問答	三五
釧路川流域	三六
春	三七
青年 Y・M	三九
キャベツのファンタジイ	四四
オカッパ達	四三
不滅の火	四七
秋の絵	五一

三三	三三
三四	三三
三五	三三
三七	三三
三八	三三
三九	三三
四四	三三
四三	三三
四七	三三
五一	三三

IV

春ちかく	つる	生命について	妙な時間	木のいのち	梅	一刻の歌	雲	菊に	波	季節のカンヅス	鶴	淡紅いろのリボン	われら あらたなる	泉のうた	孤島
------	----	--------	------	-------	---	------	---	----	---	---------	---	----------	-----------	------	----

三〇五	三〇七	三〇五	三〇四	三〇三	三〇二	二九八	二九六	二九四	二九二	二九〇	二八八	二八六	二八四	二八二	二八〇
跳ねあがる魚	春しんかん	私の中の木	神父昇天	僕の中の奴	緑の瞳	かんむり鶴	生	冬野に高く	春の太陽	早春	五月の花	白髪	秋	生きた記憶	墜落
一年の計	詩														

三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

芽出たき不在 三五四
 海と少女 三三七
 富士 三六八
 夜雨 三六九
 これでいいのか！ 三六九
 春さむし 三六三
 食卓 三六四
 しあわせの夢 三六六
 さめない夢 三六八
 饑の海 三六九
 都市 三七〇
 溶ける小舎 三七二
 日暮れ鳥 三七四
 僕よ 何処に 三七六
 春の雲 三七八
 山の道 三八〇
 波止場 三八二
 わくら葉 三八三

三五四
 三三七
 三六八
 三六九
 三六九
 三六三
 三六四
 三六六
 三六八
 三六九
 三七〇
 三七二
 三七四
 三七六
 三七八
 三八〇
 三八二
 三八三

V

未 来 三八五
 ふしぎな木々 三八六
 逝く春の日に 三八八
 天の路 三八九
 自由化の嵐の中で 三九一
 卯年日本 三九三
 富士飛行 三九四
 「英雄交響曲」 三九七
 人 魚 三九九
 木のならぶ道 四〇〇
 夜明けの歌 四〇三
 あなた達の旗は 四〇五
 小鳥達 四一二
 車窓に青く 四一三
 鹿 四一五
 貴女の薔薇 四一八

三八五
 三八六
 三八八
 三八九
 三九一
 三九三
 三九四
 三九七
 三九九
 四〇〇
 四〇三
 四〇五
 四一二
 四一三
 四一五
 四一八

松江訪問 四二〇
 溶けた私 四二一
 今朝の山道 四二五
 ほくら海の児 四三七
 今朝の春 四三〇
 秋の薔薇 四三三
 川に釣す 四三五
 鳥 四三七
 美籠に 四三七
 日本の茶の間に 四三八
 新春のうぶ声 四四〇
 薔薇の頌 四四四
 山裾の家 四四六
 樹や小鳥 四四八
 いまもなお 四四九
 髪 四五〇
 夢 四五三
 燃えたぎるいのち 四五五

四二〇
 四二一
 四二五
 四三七
 四三〇
 四三三
 四三五
 四三七
 四三七
 四三八
 四三七
 四三七
 四四〇
 四四四
 四四六
 四四八
 四四九
 四五〇
 四五三
 四五五

VI

郵便旗 四二七
 あの日といま 四二九
 シドニー公園で 四六一
 地平線の見える国 四六三
 闇 四六五
 山村再訪 四六七
 山の除幕式 四六九
 白木蓮に思う 四七一
 日本の漁夫 四七三
 青い色 四七五
 土塀のうた 四七六
 おさかなのめ 四八一
 山の元日 四八三
 にわとりよ 四八五
 雪の路 四八七
 春の星 四八九

四二七
 四二九
 四六一
 四六三
 四六五
 四六七
 四六九
 四七一
 四七三
 四七五
 四七六
 四八一
 四八三
 四八五
 四八七
 四八九

ボール	四九〇	はつしも	五三五
稲の日本	四九三	三日ぼうず	五三七
海にむかえば	四九六	麦ふみ	五三九
燈の下で	四九七	リンゴの中	五三〇
海の子よ	四九八	蟻と雀	五三二
たのしい前夜	五〇一	青い色	五三三
苗はこび	五〇三	愛について	五三五
大漁	五〇五	自由な海	五三七
燕の智慧	五〇七	金魚	五三九
波	五〇九	南極の夢	五四〇
はつ日の出	五二〇	山国の五月	五四三
おとうさん	五二一	夏の友だち	五四四
縁の中に	五二四	初荷	五四六
えんそく	五二六	木の中の人	五四八
みかん	五二八	せみ	五五〇
くりのみ	五三〇		
いろいろの木々	五三三	解説	五三三
あずも天気だ	五三四	編註	五三三

竹中郁

送春愚語

A

生ぬるい吐息

「春さ」

そして土^ド耳^ル古風呂の物思ひ

あゝ わたしは大の^(寝)懶け者

終日を何として暮す

幻想と妄語の孤獨、惱ましい^(かきんばこ)嗅煙草

明るい窓の外では

此世は二輪車の輪よりも早く駈けぬける

うす汚ない天井にこびりついた

日となく夜となしの妄想の糞を

風は窓から

小氣味好げに埃(ほこり)の雨とふるひ落すを

愚かしい涙と共にわたしは見る

早く窓を閉めよう

晝よ早くかげつておくれ

けれど、その時に

閉め切つた此の窓と天井は

又もや空想に圓く膨(ふくら)れ上り